

2017年度第1四半期決算 説明会資料

2017年7月31日



A 2017年度第1四半期決算概要

- A-1 : 第1四半期決算概要
- A-2 : 第1四半期業績変動のポイント [前年同期比較]
- A-3 : 上期及び通期業績予想
- A-4 : セグメント別 上期及び通期業績予想
- A-5 : 2017年度上期業績変動のポイント [期首公表比較]
- A-6 : 構造改革及び引当金等による収支影響額・コスト削減進捗
- A-7 : 中期経営計画 進捗状況 (2017年度第1四半期)

B 部門別業績動向

- B-1 : 不定期専用船事業 - ドライバルク船
- B-2 : 不定期専用船事業 - LNG船 / 油槽船
- B-3 : 海洋資源開発事業及び重量物船事業
- B-4 : コンテナ船事業
- B-5 : 不定期専用船事業 - 自動車船

2017年度第1四半期決算概要



A-1 2017年度第1四半期決算概要

第1四半期決算概要

連結 第1四半期決算概要

(億円)

	2017年度	前年同期比	
	1Q 実績	1Q 前年実績	今回 増減額
売上高	2,874	2,446	428
営業損益	39	▲ 148	187
経常損益	60	▲ 225	285
親会社株主に帰属する当期純利益	85	▲ 268	353
為替レート(¥/\$)	¥111.48	¥111.12	¥0.36
燃料油価格(\$)	\$326	\$208	\$118

セグメント		2017年度	前年同期比	
		1Q 実績	1Q 前年実績	今回 増減額
コンテナ船	売上高	1,472	1,222	249
	経常損益	61	▲ 123	184
不定期 専用船	売上高	1,264	1,092	172
	経常損益	4	▲ 73	76
海洋資源開発 及び重量物船	売上高	49	46	2
	経常損益	▲ 2	▲ 18	16
その他	売上高	89	85	4
	経常損益	10	1	10
調整額	売上高	-	-	-
	経常損益	▲ 13	▲ 12	▲ 1
合計	売上高	2,874	2,446	428
	経常損益	60	▲ 225	285

主な財務指標

(億円)

	2016年度期末	2017年度1Q末
自己資本	2,195	2,276
有利子負債	5,505	5,550
DER	251%	244%
NET DER	160%	154%
自己資本比率	21%	22%

▶ コンテナ船事業

欧米航路中心に市況の底入れ / 黒字に転換

▶ 不定期専用船事業

油槽船市況は低調。ドライバルクは需要の見通しの不透明さもあり市況の上値が重く、又、サイクロン等による一部航海の2Qへ期ずれあり。自動車専用船は資源国向け低調に推移も、欧州向け・大西洋域内貨物積取りは堅調に推移。昨年度までの構造改革が効果を上げ、黒字に転換。

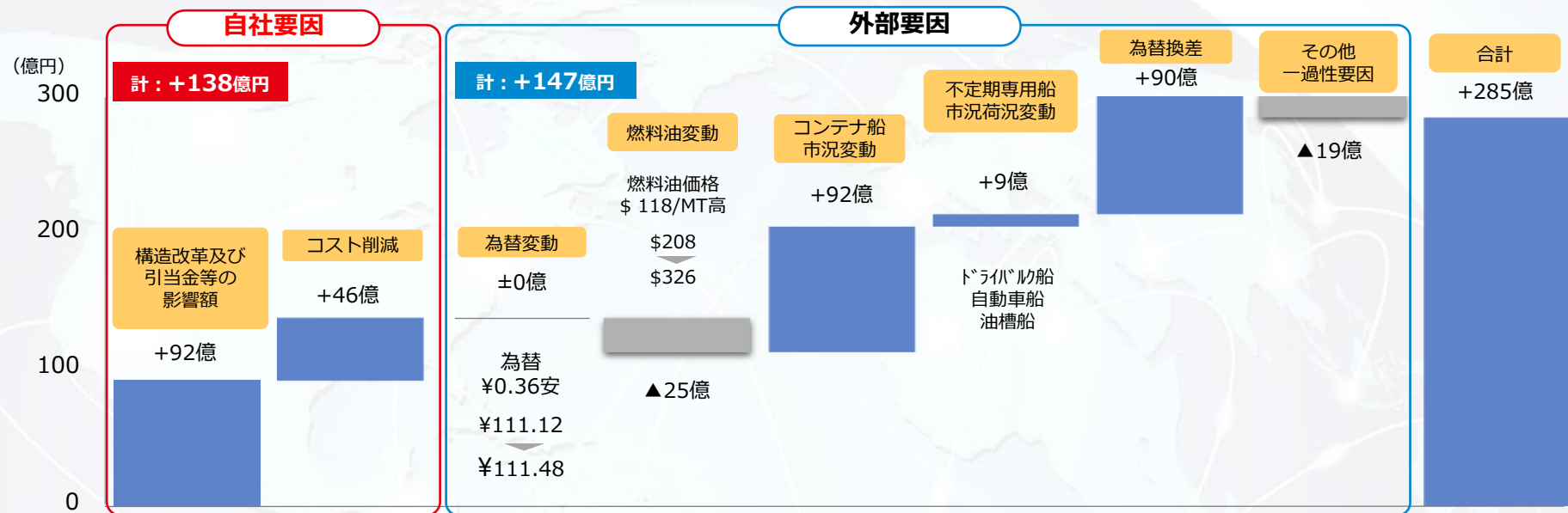
▶ 海洋資源開発及び重量物船事業

重量物船事業売却(7月)実施、FPSO事業参画基本合意による事業ポートフォリオ変革実施

オフショア支援船では市況は低迷、収安益定化に向けた事業構造改革を進める

前年同期比 経常損益と損益変動要因

2016年度 1Q実績 ▲225億 ⇒ 2017年度 1Q実績 +60億(+285億)



市況前提比較

		2016年度 1Q実績	2017年度 1Q実績	差異
コンテナ船	北米往航運賃指数	73	76	3
	欧州往航運賃指数	40	54	14
ドライバルク	CAPE	\$6,700	\$12,200	+\$5,500
	PANAMAX	\$4,900	\$9,000	+\$4,100
	HANDYMAX	\$5,800	\$8,700	+\$2,900
	SMALL HANDY	\$4,800	\$7,300	+\$2,500
油槽船	VLCC(中東-日本)	\$42,000	\$19,800	▲\$22,200
	AFRAMAX (南方/日本)	\$18,600	\$10,200	▲\$8,400
	クリーン船11万トン(中東/日本)	\$14,400	\$8,700	▲\$5,700

A-3 2017年度第1四半期決算概要 上期及び通期業績予想

連結 2017年度上期及び通期業績予想

(億円)

	2017年度					期首公表比		期首公表比	
	1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	公表上期	増減額	公表通期	増減額
売上高	2,874	2,826	5,700	5,520	11,220	5,700	-	11,300	▲ 80
営業損益	39	61	100	130	230	110	▲ 10	240	▲ 10
経常損益	60	40	100	110	210	100	-	210	-
親会社株主に帰属する当期純利益	85	65	150	60	210	150	-	210	-
為替レート(¥/\$)	¥111.48	¥110	¥111	¥110	¥110	¥110	¥1	¥110	¥0
燃料油価格(\$)	\$326	\$323	\$325	\$320	\$322	\$320	\$5	\$320	\$2

変動影響（2Q～4Q 9ヶ月間）

為替レート 1円変動 ▶ ±4億円 燃料油価格 10ドル変動 ▶ ±6億円

配当について

財務体質改善と事業基盤の安定化を今期の最優先課題と捉え、
誠に遺憾ながら当期中間及び期末配当予想は無配とさせていただきます。

A-4 2017年度第1四半期決算概要

セグメント別 上期及び通期業績予想

セグメント別 売上高/経常損益予想

(億円)

セグメント		2017年度					期首公表比		期首公表比	
		1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	公表上期	増減額	公表通期	増減額
コンテナ船	売上高	1,472	1,519	2,990	2,900	5,890	2,900	90	5,800	90
	経常損益	61	49	110	80	190	110	-	190	-
不定期専用船	売上高	1,264	1,216	2,480	2,400	4,880	2,500	▲ 20	4,900	▲ 20
	経常損益	4	11	15	60	75	30	▲ 15	90	▲ 15
海洋資源開発 及び重量物船	売上高	49	11	60	20	80	100	▲ 40	200	▲ 120
	経常損益	▲ 2	▲ 3	▲ 5	▲ 10	▲ 15	▲ 10	5	▲ 20	5
その他	売上高	89	80	170	200	370	200	▲ 30	400	▲ 30
	経常損益	10	5	15	10	25	10	5	20	5
調整額	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	経常損益	▲ 13	▲ 22	▲ 35	▲ 30	▲ 65	▲ 40	5	▲ 70	5
合計	売上高	2,874	2,826	5,700	5,520	11,220	5,700	-	11,300	▲ 80
	経常損益	60	40	100	110	210	100	-	210	-

2017年度通期見通し

▶ コンテナ船事業

市況に改善が見られるが、引き続き地政学的リスクなどに注意が必要
THE Allianceによる強力なサービス継続

▶ 不定期専用船事業

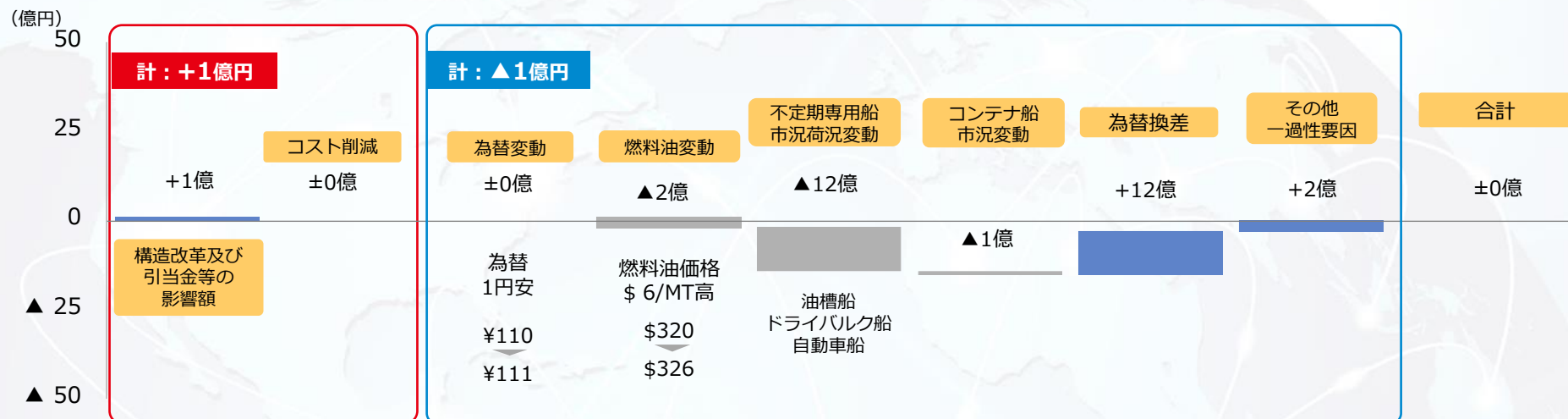
ドライバルク市況は緩やかな回復基調維持
油槽船市況は上値の重い展開
自動車船は、資源国向け荷量回復は限定的も、欧州・北米向けや大西洋域内荷動きは堅調に推移

▶ 海洋資源開発及び重量物船事業

オフショア支援船は、収益安定化に向けた事業構造改革を進める

期首公表比 経常損益と損益変動要因

期首公表 上期 +100億 ⇒ 最新予想 上期 +100億(±0)



市況前提比較

		期首公表 上期前提	最新予想	差異
コンテナ船	北米往航運賃指数	80	77	▲ 3
	欧州往航運賃指数	56	57	▲ 1
ドライバルク	CAPE	\$14,000	\$13,100	▲\$900
	PANAMAX	\$10,000	\$9,000	▲\$1,000
	HANDYMAX	\$9,000	\$8,350	▲\$650
	SMALL HANDY	\$7,000	\$7,000	+\$0
油槽船	VLCC(中東-日本)	\$31,000	\$18,100	▲\$12,900
	AFRAMAX (南方/日本)	\$18,000	\$10,100	▲\$7,900
	クリーン船11万トン(中東/日本)	\$17,000	\$10,500	▲\$6,500

2015・16年度に行った構造改革 及び引当金等による2017年度収支影響額

(億円)

	期首前提	通期見込	期首 前提比
不定期専用船事業	118	119	+1
コンテナ船事業	203	202	▲1
海洋資源開発及び重量物船事業	22	21	▲1
合計	343	342	▲1

コスト削減実績（対期首目標比）

(億円)

		期首目標	1Q実績	上期見込	下期見込	通期見込	期首 目標比	達成率
コンテナ船	航路合理化	145	32	75	70	145	-	100%
	運航経費削減							
	コスト削減							
	収益改善							
不定期専用船・その他		47	14	27	21	48	+1	102%
合計		192	46	102	91	193	+1	101%

A-7 2017年度第1四半期決算概要 中期経営計画 進捗状況 (2017年度第1四半期)

事業ポートフォリオ戦略転換

- 重量物船事業売却を実施(2017年7月)
- ガーナ沖 油ガス田FPSO事業参画基本合意(2017年7月)
- マレーシア・テナガ社発電用石炭COAなど安定収益基盤拡充に取り組む
- コンテナ船事業統合の完遂に向けて取り組み中

経営管理高度化と機能別戦略強化

- 事業リスク・リターン管理
外部サポートも得て、事業リスク・リターン管理高度化に向け準備中。別途その概要を公表予定。
- CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)強化
社内プロジェクトチーム設置、様々な角度から当社グループの顧客基盤強化に向けた施策を検討・整理中。
- 技術革新・ビジネスモデル変革
2017年7月に「先進技術グループ」設置。社会変化・顧客要望に沿った技術革新・ビジネスモデル変革の取組みを強化。

ESGの取組み

- 次世代環境フラッグシップ – シップ・オブ・ザ・イヤー2016受賞
当社7,500台積自動車専用船 “DRIVE GREEN HIGHWAY”が日本船舶海洋工学会主催の題記賞を受賞
- SRI投資関連 構成銘柄選定
「FTSE4Good Global Index」構成銘柄選定(15年連続)
「MSCI 日本株女性活躍指数」構成銘柄選定
「ETHIBEL EXCELLENCE 投資ユニバース」組入れ企業継続選定

部門別業績動向



B-1 部門別業績動向

不定期専用船事業 - ドライバルク船

▶ 2017年度1Q実績

ドライバルク市況は、堅調な輸送需要を背景とする前年同期比大幅な需給バランスの改善により、大底を脱し回復傾向にあるが、鉄鋼原料需要の見通しの不透明さもあり足踏み状態

- ▶ 大型船 鉄鉱石荷動きは、前年に続き堅調に推移するも、中国の金融及び不動産市場の引き締めリスクや環境対策などが懸念材料となり、上値の重い状況となった
- ▶ 中小型船 大型船市況と同様に軟化を続けたが、6月以降は全海域において石炭や穀物の荷動きが活発化したことより上昇に転じる局面もあった
- 市況変化を見極めた効率配船実施、最適経済運航の徹底、エクスポージャーの縮小に取り組んだ

▶ 2017年度2Q以降

- 安定収益確保と運航効率改善に取り組み、市況影響を受けにくい収益構造を強化

バルク市況	2016年度					2017年度			
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想
ケープ	\$6,700	\$8,000	\$12,000	\$11,000	\$9,450	\$12,200	\$13,100	\$16,000	\$14,550
パナマックス	\$4,900	\$5,800	\$8,700	\$8,200	\$6,900	\$9,000	\$9,000	\$11,000	\$10,000
ハンディマックス	\$5,800	\$7,000	\$8,400	\$8,100	\$7,350	\$8,700	\$8,350	\$9,000	\$8,700
スモールハンディ	\$4,800	\$5,800	\$7,000	\$6,600	\$6,050	\$7,300	\$7,000	\$7,000	\$7,000

B-2 部門別業績動向

不定期専用船事業 - LNG船/油槽船

2017年度1Q実績

- ▶ LNG船
 - ▶ 安定収益事業として中長期契約を基盤とした順調な稼動
 - ▶ 液化ガス新事業室を新設し、液化ガス関連新規事業への取組みを強化
- ▶ 油槽船
 - ▶ 船腹供給増を背景に需給ギャップが悪化し、市況は何れの船型も低調に推移
 - ▶ 当社VLCC及びLPG船隊は、中長期契約を基盤とした順調な稼動を継続

2017年度2Q以降

- ▶ LNG船
 - ▶ 中長期契約獲得による安定収益積上げ
 - ▶ トレード変化による中期契約需要には、事業リスク管理を考慮した対応
 - ▶ 需要創出型のLNG/LPG新事業開拓を推進
- ▶ 油槽船
 - ▶ 既存船代替・新規商売獲得による中長期契約拡充
 - ▶ 市況影響型事業の縮減

油槽船市況 (WS)	2016年度					2017年度			
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想
VLCC	60	37	70	69	59	57	54	77	66
(中東/日本)	\$42,000	\$16,000	\$48,000	\$28,000	\$33,500	\$19,800	\$18,100	\$33,000	\$25,600
Aframax	101	75	97	115	97	99	100	137	119
(南方/日本)	\$18,600	\$10,000	\$15,000	\$13,500	\$14,300	\$10,200	\$10,100	\$18,000	\$14,100
クリーン11万トン型	88	91	75	107	90	92	102	145	124
(中東/日本)	\$14,400	\$14,500	\$9,500	\$11,000	\$12,400	\$8,700	\$10,500	\$18,000	\$14,300

B-3 部門別業績動向

海洋資源開発事業および重量物船事業

▶ 2017年度1Q実績

- ▶ オフショア支援船
 - ▶ 海洋資源開発停滞により市況は低迷
- ▶ ドリルシップ
 - ▶ 長期契約による船腹順調稼働により安定収益を確保
- ▶ FPSO
 - ▶ ガーナ向けFPSOの保有・傭船事業への参画に基本合意
(15年間の傭船契約による安定収益事業拡充・次代の中核事業育成を図る)
- ▶ 重量物船
 - ▶ 本年7月に事業ポートフォリオ変革に向けて、重量物船事業の売却を決定

▶ 2017年度2Q以降

- ▶ オフショア支援船
 - ▶ 収益安定化に向けた事業構造改革・コスト削減・為替対策を進める
- ▶ ドリルシップ
 - ▶ 高稼働率運航による安定収益型事業として定着

B-4 部門別業績動向 コンテナ船事業

2017年度1Q実績

- 前年度より欧米航路を中心に底入れが見られ収益は急速に回復し、黒字に転換
- 期首に設定した航路合理化、コスト削減は粛々と実行、見込み通りの成果

2017年度2Q以降

- 運賃市況には改善が見られるが、一部先進国における政治的リスクや一部地域における地政学的リスクには注意が必要
- コンテナ船社間の更なる統合・合併による市況への影響を注視
- 収益性を重視した貨物構成の維持を確実に実施
- 季節要因に合わせた確実な減便対応と、航路合理化、コスト削減、および収益性の高い特殊貨物を推進
- THE Allianceによる顧客ニーズに応える、より強力なネットワーク提供
- 14000TEU型3隻の竣工による船隊競争力向上

		2016年度					2017年度			
		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想
売上高 (億円)		1,222	1,247	1,345	1,376	5,190	1,472	2,990	2,900	5,890
経常損益 (億円)		▲ 123	▲ 87	▲ 29	▲ 76	▲ 315	61	110	80	190
運賃推移	北米往航	73	71	76	81	75	76	77	82	80
08年1Q = 100	欧州往航	40	47	47	54	47	54	57	58	57
積高 (万TEU)	北米往航	23.3	26.6	26.4	23.5	99.7	25.6	52.3	49.6	101.9
	欧州往航	10.0	10.4	10.6	10.9	41.8	11.5	24.2	23.0	47.2
スペース (万TEU)	北米往航	26.5	27.7	27.0	25.8	107.0	27.9	57.0	56.1	113.1
	欧州往航	11.4	11.7	11.6	11.3	46.0	12.3	25.7	24.6	50.4
消席率 (%)	北米往航	88%	96%	97%	91%	93%	92%	92%	88%	90%
	欧州往航	88%	89%	91%	96%	91%	94%	94%	93%	94%

B-5 部門別業績動向

不定期専用船事業 - 自動車船

2017年度1Q実績

- 輸送台数：887千台（前年同期比約15%増）
- 完成車海上輸送需要：
アジア出し資源国向け貨物は引き続き低調に推移したが、
極東アジア出し欧州向け貨物や大西洋域内及び欧州域内の貨物積み取りは好調に推移

2017年度2Q以降

- 極東アジア出し欧州・北米向け貨物や大西洋域の荷動きは堅調に推移、資源国向けの荷量回復は年内には限定的と予想
- HIGH&HEAVY貨物(背高・重量貨物)増量の取組みの継続と収益拡大
- 7,500台超自動車船15隻をはじめとする次世代大型船効果による競争力向上
- 短期傭船にて荷動きに即した運航船の船腹調整を実施
- 新たな輸送需要に対応した新規ルート開設・取込みによる事業基盤の拡大

輸送台数 (千台)	2016年度					2017年度			
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想
往航	265	261	296	250	1,071	264	500	548	1,048
復航	47	50	48	36	181	48	94	94	188
三国間	289	283	312	286	1,171	362	712	661	1,373
欧州域内	170	154	155	203	682	213	432	457	889
合計	771	748	811	776	3,106	887	1,738	1,760	3,498
船隊規模(隻数)	100	97	95	94	94	94			



K Value for our Next Century